

五月十二日

七時起床。九時前銅版画一点彫り終わる。何を彫り込んでいるのか自分でも解らないが、このスタイルをしばらく続けてみる。一時間でもカリコリやっていると何も考えなくなるのが利点だね。ある種の薬だな。午後は研究室に出て幾つかの打合わせをこなすが、その打合わせによって作られる実物の建築の質と、遊びで彫っている銅版の表現の質を比較したら、どうなのか良くわからない。

五月十三日

七時過起床。昨日の午後は研究室で二二時三〇分迄打合わせの連続。晩飯を喰べそこねた。夜半にProductで一つ提案がペイヤオからあり、仲々良いモノであった。ウェブサイトに公開したい。

階下の現場で独人の時間を過ごし、九時前世田谷村を発つ。

九時半研究室。十時大学院推薦入学面接。十一時過新木場倉庫設計のチーム編成。十二時デービッド森の学校打合わせ。十五時中央林間にて古木氏等と森の学校打合わせ。その場で野村を役所とのコーディネーション、その他事務的な仕事、そして現場も見させる事を決定する。コンバージョン、および再生プロジェクトだけに使い方を限定する積りであったが、そう論理的に割り切れ

るものではない。ここらでひと働きしてもらおう。私の高望みのクセは骨身にしてみても知っているだろう。私をアシストしてくれる人間の気持のグレードは大事だ。世間知らずの馬鹿に任せるわけにもいかないし、かと言って世間ズレしたセンスの悪い者に割り振るわけにもいかない。クライアントとの打合わせを終えデービッドと渋谷で別れて、世田谷村に戻る。デービッドの構成員との組み合わせは上手くゆくかも知れない。あとは、プロダクツの担当者を固定して、今年の前半は乗り切る。

五月十四日

六時半起床。やりたい事は山程あるのに、まだまだ成果は微々たるものだ。七〇才までに何とかしたい。高い山に登らなくては深い海に潜らなくては。昨夜は日課として決めていた銅版画の一点彫りもできなかった。と、いうわけで八時過ぎまで新しく二点の銅版画に手をつける。銅は線を彫り込もうとする時に反撥して、自由な線を描かせてくれない。クニヤツと曲がったり、グリツとずれたり、させられてしまう。その偶然の力学関係の連続を丹念に使いつづけてゆくところが建築設計と酷似している。面白い。自由に描くつもりが、自由に出来ない。そのズレがポイントだな。銅と身体で遊ぶという感じだ。